

海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和 7 年 2 月 15 日～令和 7 年 2 月 23 日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：5 年

学籍番号：210973429

氏 名：齋藤雅文

1. 参加目的

アメリカの薬剤師・薬学生がどのような考え方で薬物治療や患者さんと向き合っているのかを学び、その姿勢を自分の将来の薬剤師像の形成に生かしたいと考えたため。

また、将来的に薬剤師教育にも携わりたいと考えており、アメリカの薬学生・薬剤師教育を自身の目で確認し日本との違いを確認したいと思ったから。

2. 研修内容

【研修テーマ】 アメリカにおける薬学教育制度や医療制度、また薬剤師・薬学生の患者への向き合い方の違いを知ること。

【研修日程】

月 日	研修内容
2 月 16 日	アメリカでの薬剤師教育についての講義 感染症並びに AIDS/HIV の治療に関する講義 インド出身の薬剤師による講義 アメリカでのヘルスケアシステムについての講義
2 月 17 日	薬局薬剤師による講義 サウジアラビア出身の薬剤師による、世界の薬剤師教育・トレーニングについての講義 アリゾナ大学病院の見学 患者のアドヒアランス向上に関する講義
2 月 18 日	Poison Center の見学 ICU で働いている薬剤師による講義 市中肺炎に対する薬物治療設計の講義、 レジデントによる症例報告
2 月 19 日	CVS Pharmacy の見学、患者のアドヒアランス向上に関する講義 学生同士による市中肺炎に対する薬物治療の設計
2 月 20 日	医療経済学の講義 実際にアリゾナ大学で行われている栄養学の講義への参加 Medicine museum の見学 留学生によるプレゼンテーション エジプト・カタール出身の薬学生による講義
2 月 21 日	文化的体験 (Arizona Sonora desert Museum)

【研修内容の詳細】

薬局薬剤師や病院薬剤師だけでなく、国の機関で実際に勤務している薬剤師や、他国で薬剤師資格を取得した後に Pharm. D. 取得のためアリゾナ大学へ入学した方など、さまざまな経験を持つ方々のお話を伺うことができました。

薬局見学では、現地で働く薬剤師からアメリカの薬局の特徴について学びました。例えば、薬局内に「Minute Clinic」と呼ばれる、病院を受診せずに簡易的な診療を受けられるクリニックが併設されていること、ワクチン接種専用の部屋が設けられていること、さらに不要になった OTC 医薬品や処方薬を廃棄する「Medication Disposal（医薬品回収）」の設備があることなどを学びました。

病院見学では、一般病棟、小児科病棟、ICU 病棟を見学することができました。特に印象的だったのは、ICU の種類が非常に多く、小児 ICU も設置されている点でした。

薬学教育に関する講義では、アメリカの薬学部のカリキュラムやその具体的な内容について理解を深めました。日本でいう SOAP や薬剤師記録に相当する「Patient Centered Care」という治療方針決定のプロセスがあること、さらに IPPE (Introductory Pharmacy Practice Experience) や APPE (Advanced Pharmacy Practice Experience) といった、在学中から臨床現場で実践的に学ぶことができる教育システムが構築されていることを学びました。

アドヒアランスに関する講義では、服薬アドヒアランス低下の原因を、患者個人の要因だけでなく、環境要因や地域要因などに細分化して捉える視点を学びました。さらに、アドヒアランス向上を目的とした MEDSRem というアプリケーションも活用されていることも学びました。

3. 感想

本研修を通して、アメリカにおける薬学教育や薬剤師の役割、そして薬剤師としての考え方を学び、日本との相違点や共通点を見いだすことができました。

薬学教育の違いとして特に印象的だったのは、アメリカではより実践的な教育に多くの時間が割かれている点です。早い段階から患者へのアプローチ方法や多職種連携について学び、それを実践する機会が設けられています。また、病院や薬局での実習時間も日本より長く設定されており、より深く臨床に関わることができる印象でした。

さらに、教育に関わることに強い情熱を持つ人が多く、特に今回講義をしてくださった薬局薬剤師は「教育に関われるのであれば報酬は必要ない」と考えており、使命感を持って取り組んでいる姿が印象的でした。そして何より、患者さんのために行動するという根本的な姿勢は世界共通であることを改めて実感しました。また、学生一人ひとりが明確な理想の薬剤師像や将来の目標を持ち、それに向かって主体的に行動している点も強く印象に残っています。実際、講義中にアリゾナ大学の学生から「あなたのゴールや目標は何ですか」と尋ねられましたが、私はすぐに答えることができず、自身の将来像について改めて考えるきっかけとなりました。

薬局見学では、実際に販売されている OTC 医薬品を観察する中で販売形態の違いにも大きな衝撃を受けました。

今回の研修を通じて、将来薬剤師として働くにあたり、常に広い視野を持ち、海外における新しい考え方や取り組みを積極的に学び続ける姿勢の大切さを実感しました。そして何よりも、「患者さんのために」という根本的な思いをこれまで以上に強く持ち続けていきたいと感じました。

最後に、本研修の実施・運営に携わってくださったアリゾナ大学臨床薬学研修のすべての関係者の皆様に、このような貴重な機会を与えていただきましたことを、心より深く感謝申し上げます。